

花の会

三重病院の「花の会」は院内・院外を問わず多くの方に支えられています。今回は院内のメンバー二人をご紹介します。売店横のミニギャラリーをいつも彩る「水彩画」と「色紙」の作者 堀田京子さん(左)、窓辺のかわいい「おひな様コレクション」をアレンジした田中春美さん(右)です。皆さまの目をこれからも楽しませられますように!

—花の会—

お二人からひとことご挨拶

堀田京子さん

「趣味を始めて25年が経過します。私は、趣味は密かに楽しむものと思っていましたが、こうして発表して研鑽していくことも大切かなと思います。昔より詩書画といわれますように、詩あり書あり絵ありで、私の一番の楽しみを披露させていただき、日々感謝しています。そこで一句、**憩いの場 我趣味託し風光る**」



今月の植物を探せ!

vol.10

お母さんと小2の女の子の合作です。小さい植物を女の子が、大きい植物をお母さんが植えて寄せ植えしました。

《ヒント》
外来受付近く、
後ろの柱に注目。



前回の答え/
外来から病棟
へ続く廊下の
17番目の出窓

田中春美さん

「外来棟の廊下に観葉植物が置かれるようになってから、うちのおひなさまたちをここに飾らせてもらったかと思いつき、2年前から置かせていただいています。おひなさまたちも、毎年いろんな人に声をかけてもらって、きっと嬉しいことでしょう。また、来年もお目にかかれそうですよ。」



今月のイチオシ

医療福祉相談室には
小さな図書コーナーが
あります。

子どもの病気(難病・発達障害・こころの病気)に関するものから、介護する側・される側、子育てのヒントになる本、話題の本などおいています。ソーシャルワーカーが面接中の時はお部屋に入れませんが、それ以外はいつでもかまいませんので外来・入院を問わずふらりのぞいてください。

医療福祉相談室だより

「どうしてそんなにかなしいの? 親がうつ病になったとき」

《ベス・アンドリュース/大月書店》

この本は、親がうつ病になった子どもに対して、まわりはどうサポートしたらいいか、子ども自身はどう親に対処していったらいいのかが、かかれています。

お母さんがうつ病になった小学生くらいの男の子を主人公に、絵をかくワークなども入れながら、症状や治療、また子どものせいでうつ病になったのではないこと、辛いときどうしたらいいか…などが子どもにもわかるようになっています。専門家や家族など大人と一緒に読めるようになっていますので、気になる方はぜひどうぞ。

(ソーシャルワーカー 高村 純子)